



夏期学力研修会

令和8年8月5日に岸和田市立山滝小学校校長 島末智成先生を講師にお招きし、「ゴールを明確にした単元指導計画の立て方について」をテーマに、大切にしたい授業づくりのポイントについて、ご指導をいただきました。後半では、児童が話し合い活動を通じて自らの考えを深めるための手立てについて学びました。今回は、前半の研修内容について報告いたします。

研究テーマ

「子どもたちが言葉でつながる授業づくり～話し合い活動を通じて考えを深め合う授業～」

本校の課題：話し合い活動で考えが深まりにくい。（表面的な話し合いに終わってしまう。）

【1】単元のゴールに必要な言語活動の設定方法

- ・子どもにとっての学びの必然性の設定（学習への意欲につながる）
- ・対話をつなぐ、共に考えて課題を解決する学習活動にする
- ・つきたい力を明確にする（学習指導要領解説や教科書のてびきを確認）
- ・主教材と並行読書の扱い（子どもが主体的に「読みたい！」と思う教材選びをする）
- ・教員によるモデル作成（ゴールの姿、落としてはいけないことを明確にする）

【2】単元指導計画の立て方：「めざす子ども像」を具体的にイメージする

- ・子どもが「問い」をもって学習課題を解決できるようにする（過程を逆算して考える）
- ・子どもの思考の流れがスムーズになるように計画を立てる

【3】探求学習のサイクルを回して深まる学びの実現

- ①課題の設定：興味・関心に基づき、子ども自身が課題意識を持つ
- ②情報の収集：本やインターネット、交流、既習内容等から情報を子どもが自己選択
- ③整理・分析：思考ツールの活用や仮説の組み立て等から集めた情報を比較・分析
- ④まとめ・表現：学習した内容を、交流を通して発信

新たな「問い」が生まれ、探求学習のサイクルを再び回し学びを深めていく

